

原著

看護のアイデンティティー、その3：看護の行動パターンについての 大学生と看護師の価値観の相違とその意味

工藤 二郎* 小田日出子* 窪田 恵子** 中馬 成子**

<要 旨>

すべての看護大学にとって、どのような看護職のアイデンティティーを根拠に学生を教育するかは重要な課題である。この第3の報告で、我々は学生と看護師の価値観の相違を明らかにして教育に役立てるため、看護のアイデンティティーに関する152キーワードのうち、看護師としての個人的行動パターンの26キーワードを比較検討した。相違を比較する集団としては入学経緯や教育環境が類似である本学の学生と卒業生の2集団を選んでいる。学生と看護師の回答に基づき、彼女らが最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていくという操作を行い、1番から26番の各キーワードの得点を看護師と学生の2種類にデータベース化した。さらに、学生から看護師に変化したときの価値観の変化を明白にするため、「看護師行動指数」の「学生行動指数」に対する比を求めた。この結果、自己研鑽、科学的態度、良い友人を持つ、電話の対応を身につける、研究をする、がこの順に比が大きく、看護師になることにより重要性が高まるものであることが判明した。しかし、これらの中には比は大きいものの看護師での得点が低いものがあった。自己研鑽、良い友人を持つ、正確な情報を得る、物事に取り組む姿勢、の4項目は看護師での得点が高くかつ学生との価値観の差が大きかった。これらの項目とともに看護師が高い点を与えた、手順の良い仕事、笑顔、物事に取り組む姿勢、確認をする、正確な情報を得る、の5項目はカリキュラムを作成する上で重要な項目と考えられる。

キーワード：アイデンティティー 看護教育 看護大学生 個人的行動 カリキュラム

はじめに

看護とはどのようなものかを明らかにすること、また、看護教育のカリキュラムをある根拠の上に組み立てることは看護大学にとってきわめて重要な課題である。教育理念やモットー等は個人または少人数による検討の中から形づくられるものと考えられる。しかし、机上の思考により重要な概念に到達するのはきわめて困難であろう。我々は実際に大学で学習している学生、また、臨床の緊張した中で活動している若い看護師の各集団が最も鋭い問題意識を持つと考え、彼女たちの協力を得てこの研究を開始した。まず我々は看護に関する152キーワードを選択し、5カテゴリーに分類して学生の論文中の出現頻度を検討した¹⁾。次に、5カテゴリーの中の看護師としての資質に関するキーワードについて学生と看護師の価値観の変化について報告した²⁾。

本研究のようにキーワードを操作しながら看護の現実に近づこうとする徹底した研究は少ない。近年、勝原³⁾は看護師のProfession hoodを構成する要素を21人

の看護師の面接質問によって抽出し、5要素とそれらの下位要素となる23キーワードを記載している。また河津と任⁴⁾は、看護教育目標検討の資料とする目的で看護師が備えるべき要件をとらえるため、34の語句を一般人、医師、看護師、看護教師に質問している。さらに、村田と長家⁵⁾は、学生の職業イメージをとらえ学習に役立てる目的で、看護、衛生技術、診療放射線技術の各学生の職業イメージに関する調査を行っている。これら研究は、キーワードかまたは短い語句を操作して重要性を検討するという我々と類似の方法を用いており、注目すべきものと思われる。

我々の研究は上記の各研究とは目的が異なり、本学の看護学生と本学を卒業した看護師の比較的關係の強い2集団を対象とし、この2集団間の変化を検討して学生の早期教育に役立てようとしている。さらに独自に選択したキーワードを用い、多数のキーワードを多段階に重みづけて重要性を数値化する方法を用いている。本学の看護学科卒業生および学生は少数であり、したがってアンケートの回答数も少数である。しかしながら、学生や看護師のアンケート回答には各カテゴ

* 西南女学院大学保健福祉学部看護学科 教授

** 西南女学院大学保健福祉学部看護学科 助教授

りに属する新たなキーワードの示唆があり、それらを加えた総合的な質問表の作成も視野に入ってきた。さらに、5 カテゴリー内で高い得点を得た重要な語句を選び、それらの内包する意味を検討することにより、高次な看護の原理的な概念に到達するという夢も現実味を帯びてきた。

この報告では、抽出された152 キーワードのうち看護師としての個人的行動パターンのカテゴリーに属する26語句について、看護学生と看護職の経験が1年を越えている看護師の価値観の差についての解析結果を報告する。

方法

看護学科1年生と編入生が医療概論の講義を終えたあとで課したレポートの題は「医療や養護を担う看護師、保健師、養護教諭として心がけるマナーにはどのようなものがありますか。また、それはなぜ必要と思いますか。」であった。レポートの提出は76で、看護師として書かれたレポートは71であり、5人が養護教諭として書かれていた。保健師として書かれたレポートはなかった。当初のキーワードスクリーニングは看護師として書かれた71レポートより行った。これらのレポートより抽出した152キーワードは、1) 個人的資質、2) 看護職に望まれる態度・行動、または個人的な行動パターン、3) 他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動、または社会的な行動パターン、4) 専門的な看護技術、5) 専門倫理的な態度・行動、または職業倫理の5つに区分けされた¹⁾。今回の報告でも区分と属するキーワードは全く変えていない。分析はこの分類の第2カテゴリー、個人的行動パターンの26キーワードについて行った。5 カテゴリーに分類されたアンケートは本学の卒後1年目の看護師59名、卒後2年目の看護師58名、卒後3年目の看護師63名に送られ、また、本学入学後4ヶ月目の看護学科1年生99名にも依頼した。

表1はアンケートの第2カテゴリーの部分と段階的な配点数を示している。すなわち学生や看護師が最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていくという操作である。1番から26番の各キーワードの得点を看護師または学生の2種類にデータベース化した。このアンケートの集計を本学の看護学科1年学生の集団と臨床経験が1年を越えた看護師、すなわち2年目ないし3年目の看護師集団について比較検討した。まず学

生集団での各キーワードの平均得点と、看護師集団の各キーワードの平均得点を比較グラフ化した。さらに、学生と看護師で変化が大きいものを画像で表した。これらの操作には表計算と画像処理のコンピューター・ソフトを用いた。

結果

1) アンケート回答数と新たなキーワードの収集

1年を超えて看護経験のある看護師、すなわち2年目または3年目の看護師による回答は36通であった。就職1年目の看護師からの回答は30通あったが、看護経験がまだ4カ月目であったため今回の分析からは除外している。この30通は価値観の変化の中間時期での分析に重要となると考えている。一方、本学看護学科1年生からの回答は22通であった。

行動の項目に相当と考える新たなキーワードを記載した看護師は2人であった。それは、「確実さ」の第1位と、「優しさ」の7位であった。一方、新たなキーワードを記載した学生は1人で、「悩んでいても患者の前では元気である」で8位に入れていた。

2) 26キーワードの学生と看護師からの得点と平均値

1番から26番の各キーワードの得点はデータベース化されて集計された。その途中の過程の例を示す(表2)。この表はデータベースよりキーワード25番を抽出し、得点を見たものである。看護師番号の最初の数字が2の者は2年目の看護師を示し、3の者は3年目の看護師を示す。25番のキーワードは「研究をする」である。表の次の列は各看護師の配点で、1点から8点まで分布している。キーワードは26個あり、表の看護師7人以外は25番を選ばなかった所以他们は抽出されない。以下の列は総得点の29と総点29を全看護師回答数の36で除して平均した値の0.8055であり、四捨五入した0.81を25番キーワードの「看護師行動指数」としている(表3)。学生にも同様の操作を行って各キーワードの「学生資質指数」を求めた。看護師と学生の各キーワードの資質指数をグラフ化したものを示す(図1)。これを見ると1、6、13、18、19番のキーワードは看護師による配点が高い。これらは、手順の良い仕事、笑顔、物事に取り組む姿勢、確認する、正確な情報を得る、であった。一方、1、7、6、4番のキーワードは学生の配点が高く、これらは、手順の良い仕事、明るい表情、笑顔、自分の健康管理、であった。

3) 看護師の行動指数と学生の行動指数の比較

次に、各キーワードの「看護師行動指数」を「学生行動指数」で除した値を求めた。この計算により、学生から看護師になった後の価値観の変化が想像できる。その結果を図2に示す。縦軸は[看護師行動指数] / [学生行動指数] で横軸はキーワード番号である。これをみると、変化が大きい順に、10番、3番、25番、14番、23番というキーワードとなり、これらは表1により参照できるように、科学的態度、自己研鑽、研究をする、良い友人を持つ、電話の応対を身につける、という語句であった。反対に学生において価値が高かったものは20番、2番、21番、16番であり、それぞれ、整理整頓をする、服装や髪型等のみだしなみ、訪問のマナーを身につける、きびきびした動作、であった。

4) 得点が高くかつ価値観の差が大きいキーワード

価値の変化の大きいものが必ずしも重要なキーワードとは限らない。その理由は、[看護師行動指数] /

[学生行動指数] の比率は高くても看護師と学生の配点が共に低い場合もあるからである。そこで各値の組みで散布図を描き、看護師と学生の配点が目に見えるようにした。図3はその散布図で、縦軸が看護師行動指数、横軸が学生行動指数、ななめに引いた直線は [看護師行動指数] = [学生行動指数] の線である。この直線より上の点は学生に比べ看護師がより重要と考えるキーワードを示し、下の点は看護師に比べ学生がより重要と考えるキーワードを示す。また [看護師行動指数] = [学生行動指数] の線から離れるほど看護師と学生の価値観の差が大きいものとなる。これを見ると、配点が高くかつ価値観の差が大きいものは、3番の自己研鑽、14番の良い友人を持つ、19番の正確な情報を得る、13番の物事に取り組む姿勢であった。10番(科学的態度)、25番(研究をする)は変化が大きいものの、看護師での平均指数が、それぞれ1.11、0.81と低い得点であった。この2項目は学生での得点が極めて低かったのである。

表1. アンケートの行動項目の部分と配点法

B. 個人的行動

- 1) 手順良い仕事 2) 服装、髪型等の身だしなみ 3) 自己研鑽 4) 自分の健康管理 5) 継続的学習 6) 笑顔 7) 明るい表情 8) 廊下を走らない 9) ドアを足で閉めない 10) 科学的態度 11) 大きな音をたてない 12) 大声で話さない 13) 物事に取り組む姿勢 14) 良い友人をもつ 15) きちんとした姿勢 16) きびきびした動作 17) 正しい予測を持ち行動する 18) 確認する 19) 正確な情報を得る 20) 整理整頓 21) 訪問のマナーを身につける 22) 書類や手紙の書き方を身につける 23) 電話の対応を身につける 24) 最新情報に関心をもつ 25) 研究をする 26) プロ意識を持つ

B. の枠内のキーワードは、個人の行動パターンと言えそうなものです。あなたが看護職を行って、最も重要に思えるものから順に番号を記入してください。

点10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	

この範疇に相当と思われる他の言葉を思いつかれたら下の四角内に入れ、重要さの順番を書いて下さい。

Table1 : A Part of Questionnaire and Allotments to Selected Key Word

NOTE. The most important key word was allotted 10 points, the second was 9 points and so on. Every point of each key word was processed in two databases for nurses and students, respectively.

表2. データベースから抽出されたキーワード25のコンピューター画面

看護師番号	キーワード番号	得点	総点	看護行動指数
2005	25	1	29	0.80555555
3001	25	1		
3004	25	4		
3007	25	1		
3010	25	8		
3011	25	7		
3014	25	7		

Table2 : A Search Result for 25th Key Word from Nurses' Data Base

NOTE. The first column is identification number of nurses who experienced for 2 or 3 years. The 25 in second column is a key word number which indicates "to to conduct research". The 3rd column is points obtained by 25th key word which distribute from 1 to 8 in accord with estimation by each nurse. The 29 in 4th column is the total sum of points obtained by the 25th key word.

表3. アンケートの個人的行動の部で得られた全てのデータ

キーワード番号	内容	学生行動指数	看護行動指数	変化指数
1	手順良い仕事	5.86	4.61	0.78
2	服装、髪等の身だしなみ	1.91	0.53	0.28
3	自己研鑽	0.59	2.11	3.57
4	自分の健康管理	5.09	3.14	0.62
5	継続的学習	3.45	3.78	1.09
6	笑顔	5.36	4.39	0.82
7	明るい表情	5.64	3.69	0.66
8	廊下を走らない	0	0.11	0
9	ドアを足で閉めない	0	0	0
10	科学的態度	0.27	1.11	4.07
11	大きな音をたてない	0.05	0	0
12	大声で話さない	0.05	0	0
13	物事に取り組む姿勢	2.86	4.28	1.49
14	良い友人を持つ	1.18	2.78	2.35
15	きちんとした姿勢	0.95	1.06	1.1
16	きびきびした動作	3.55	1.67	0.47
17	正しい予測をもち行動	3.27	3.78	1.15
18	確認する	4.23	4.36	1.03
19	正確な情報を得る	3.05	4.72	1.55
20	整理整頓	1.5	0.19	0.13
21	訪問のマナー	0.14	0.06	0.41
22	書類、手紙の書き方	0.36	0.44	1.22
23	電話対応を身につける	0.41	0.92	2.24
24	最新情報に関心を持つ	1.36	1.81	1.32
25	研究をする	0.23	0.81	3.54
26	プロ意識をもつ	3.64	3.25	0.89

Table3 : All of The Data Obtained from Questionnaire to Students and Nurses

NOTE. The first column is the number of the key words, second column is the indicated concept, the 3rd is the student's behavior index, 4th is the nurse's behavior index, the 5th column is the ratio of the indexes.

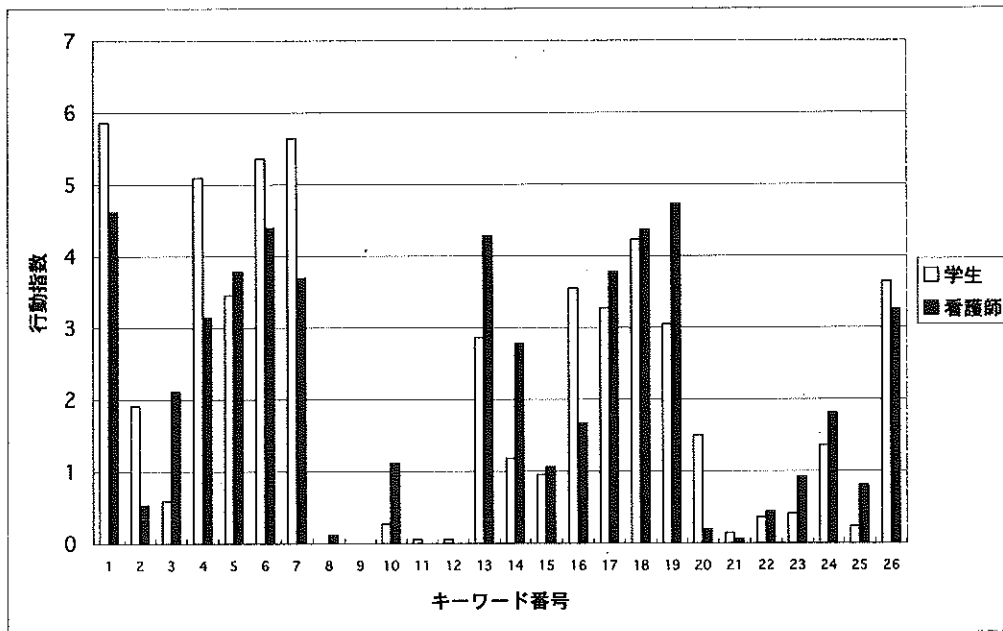


図1. 看護師と学生それぞれで26個のキーワードが得た平均行動指数

Figure1 : Comparison of the student's mean behavior index (□) with nurse's mean behavior index (■) of each 26 key words.

NOTE. Total sum of points obtained by each key word among nurse group or student group was divided by total number of nurses and students, respectively, which termed behavior index. The 1st, 6th, 13th, 18th, and 19th key words had high value among nurses. These are "to be speedy in job", "to smile", "to cope with problems", "to confirm", and "to get the accurate information", respectively.

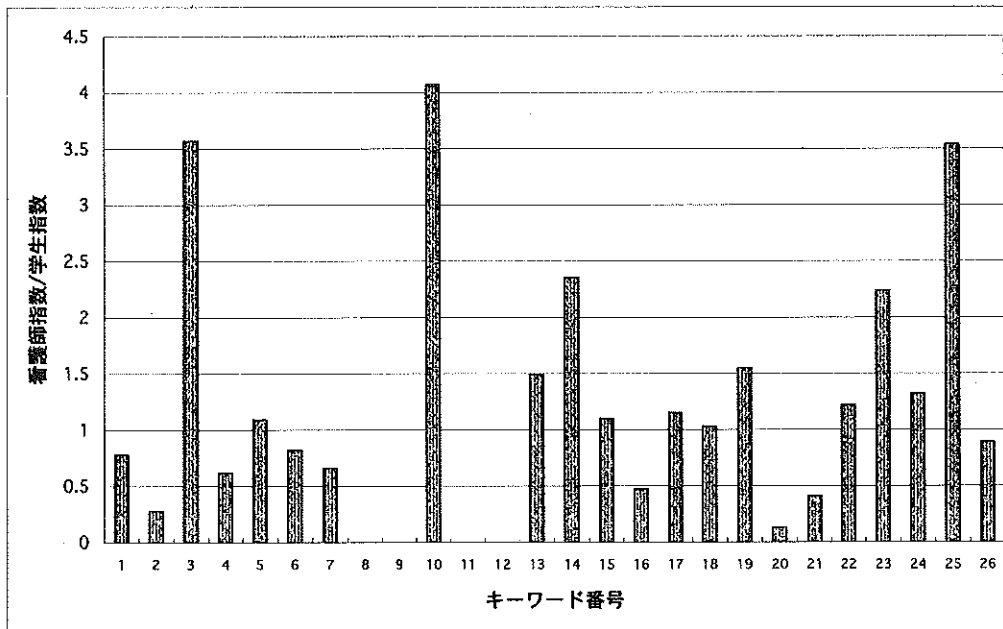


図2. 各キーワードの [看護師指数] / [学生指数]

Figure2 : [nurse's behavior index] / [student's behavior index] ratio of each 26 key word.

NOTE. This shows the changes of estimation for the behavior by students and nurses. The 10th, 3rd, 25th, 14th, and 23rd key words had highly evaluated by nurses in comparison with the students. These are "to be scientific", "to devote oneself", "to conduct research", "to select good friends", "to talk correctly over the telephone" in this order.

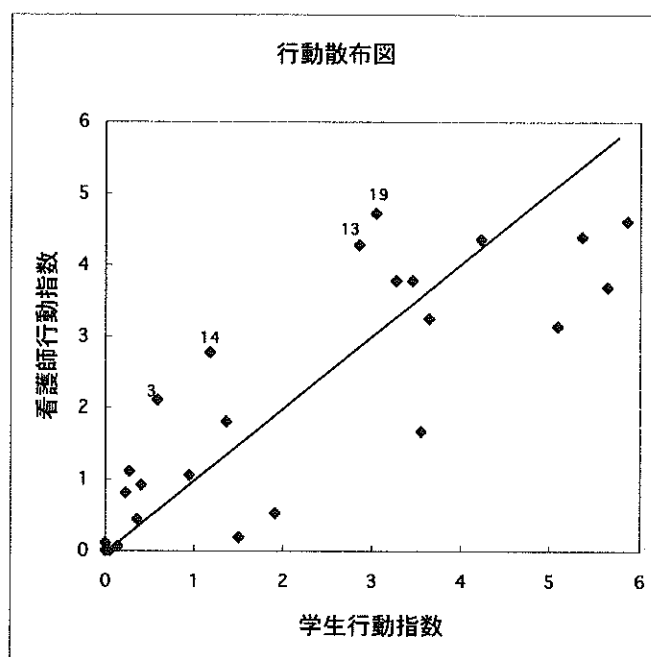


図3. 行動指数の看護師と学生の散布図

ななめに引いた直線は [看護師行動指数] = [学生行動指数] の線。

Figure3 : Relationship of the estimation of the behavior between nurses and student displayed in scattered pattern.

NOTE. The line in the figure indicates [nurse's behavior index] = [student's behavior index]. The 3rd, 14th, 19th and 13th key word had higher value among nurses than among students. These 5 key words obtained relatively high score both from nurses and students. The 3rd, 14th, 19th, and 13th key words indicate, "to devote oneself", "to select good friends", "to get the accurate information", "to cope with problems", respectively.

考 察

初回の報告¹⁾では学生の71レポートでの各キーワードの出現頻度をみだが、レポートを書いた学生とアンケートに回答した学生は入学年が1年異なっている。レポート中で出現頻度の多かった行動項目は、服装や髪などの身だしなみ、自己研鑽、笑顔、自分の健康管理、明るい表情、などであり、本報告のアンケート中での学生行動指数は、服装や髪などの身だしなみが1.91、自己研鑽が0.59、笑顔が5.36、自分の健康管理が5.09、明るい表情が5.64と、自己研鑽の非常な低値以外は類似の価値観をもっていることがわかった。結果の部に述べたように、看護師では自己研鑽の指数が2.11と中程度の得点であったため、この項目の学生から看護師への変化指数が大きくなっている。学生の場合、レポートとは異なりアンケート上にキーワードを並列されると、より重要に思われるものに得点を集中する傾向があるのかもしれない。今回、看護師と学

生より3個の新たなキーワードがもたらされた。それらは「確実さ」、「優しさ」、「悩んでいても患者の前では元気である」であった。これらは必ずしも行動パターンに属するとは考えられないが、将来の研究に有用と考えられた。

看護師と学生の比較の結果より、看護師を2から3年経験すると、自己研鑽、良い友人を持つ、正確な情報を得る、物事に取り組む姿勢、などが重視されてくることがわかる。正確な情報を得る、物事に取り組む姿勢、は学生でもそれぞれ3.05、2.86と中程度以上の得点であり、学生でもある程度の重要性は理解しているものと考えられた。これらの重要性は大学の中で強調され、それを遂行するためのやり方が教育されるべきであろう。そのほか、科学的態度、研究をする、などが看護師で比較的重要な価値観であり、留意されるべきであろう。

一方、このデータをよく検討すると、看護師に比較し学生が重要に思うものも軽視してはならない項目が

ある。例えば、学生の重視した、整理整頓をする、服装や髪型等のみだしなみ、などは仕事上の基本であり、看護師ではそれらが満足されていたため高い得点を与えなかったためとも考えられるのである。

これらの結果については、さらに異なった視点から眺めることができる。この方法は看護師集団のアイデンティティーを探るものであるが、一方、各データは学生や看護師個人の看護プロファイリング(輪郭同定)ともなる。すなわち、各項目の得点のパターンは各個人に独特であり、その時期でのその人の重視する点または努力目標が明示されるものでもある。さらに言い換えると、このプロファイリングにより、学生個人や看護師個人の価値観が目に見える“かたち”になるのである。この“かたち”はその学生の教育に有用であろうし、またその看護師にとっては自分の進む海の海図のようなものであろう。

以上、行動のカテゴリーに分類された項目について、看護学生と看護師の相違とその意味について報告した。次回の報告は看護職者の社会的行動パターンについての分析となる予定である。

謝 辞

この研究は、2000年度西南女学院大学共同研究費「西南女学院大学保健福祉学部看護学科卒業生の実態調査」の助成の一部を受けた。看護学科相良講師にはデータの考え方について有益な御示唆を頂いた。

文 献

- 1) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子：看護のアイデンティティー：看護大学生は看護職をどのようにとらえているか、西南女学院大学紀要、5: 1-8, 2001
- 2) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティー、その2：看護の資質についての大学生と看護婦の価値観の相違とその意味、西南女学院大学紀要、6: 10-17, 2002
- 3) 勝原裕美子：看護婦・士のProfession hoodを構成する要素、日本看護科学会誌、19: 42-48, 1999
- 4) 河津芳子、任和子：看護婦に求められる資質：一般人、医師、看護婦、看護教師への意識調査をふまえて、日本看護医療学会雑誌、2: 9-15, 2000
- 5) 村田節子、長家智子：医療人を目指す学生の職業イメージに関する予備的調査、九州大学医療技術短期大学部紀要、27: 15-20, 2000

Identity of Nursing, 3rd Report: Implications for the different estimation of the behavior pattern for nursing between students and nurses.

Jiro Kudo Hideko Oda Keiko Kubota Nariko Chuman

<Abstract>

One of the most important issues for the Japanese nursing colleges is the establishment of identity of nursing based on which students are taught. In this 3rd report we show the difference of estimation on 26 key words related to personal behavior concerning identity of nursing between university students and nurses.

The most important key word they selected was allotted 10 points, the second was 9 points and so on, then every point of each key word was processed in two data bases for nurses and students, respectively. Total number of nurses and students divided total sum of the points obtained by each key word among nurse group or student group, respectively, which termed mean behavior index. To show the changes of estimation from students to nurses, the ratio of [nurse's behavior index] / [student's behavior index] of each 26 key word was calculated. The key words which had higher value among nurses than students were "to devote oneself", "to be scientific", "to select good friends", "to talk correctly over the telephone", and "to conduct research" in this order. The key words, "to devote oneself", "to select good friends", "to get the accurate information", and "to cope with problems" obtained high score from nurses and were estimated as more valuable by nurses than by students.

The 5 key words highly evaluated by nurses, "to be speedy in job", "to smile", "to cope with problems", "to confirm", and "to get the accurate information" were considered to be important for making curriculum of the university students.

Key words: identity, nursing education, university students in nursing course, behavior for nursing, curriculum